令和6年度第1回尾張旭市国民健康保険運営協議会議事録

- 1 開催日時
令和6年10月24日（木）
開会 午後 2時00分
閉会 午後 3時00分
- 2 開催場所
尾張旭市役所 3階 講堂1
- 3 出席委員
被保険者を代表する委員（5名）
三浦 雅子、杉本 千登世、堀江 賢治、石原 計男、岩橋 豊
保険医又は保険薬剤師を代表する委員（4名）
松尾 功、花井 雅志、山崎 雅弘、加藤 富士子
公益を代表する委員（5名）
富田 香織、長谷川 裕子、小幡 月子、若杉 浩二、平野 良子
14名
- 4 欠席委員
鈴木 達人
- 5 傍聴者数
0名
- 6 出席した事務局職員
健康福祉部長 臼井 武男、保険医療課長 森下 克俊、
保険医療課長補佐（国保庶務担当）兼国保庶務係長 小川 真貴子、
国保年金係副主幹 高倉 哲郎、国保庶務係主査 梶田 弥生、
国保庶務係主事 奈良 百合恵
- 7 議題等
 - (1) データヘルス計画令和5年度実績評価について
 - (2) 令和5年度国民健康保険事業状況報告について
 - (3) 令和6年度以降の国民健康保険運営上の見通しについて
 - (4) その他

8 会議の要旨

会長	<p>定刻になりましたので、ただいまから令和6年度第1回尾張旭市国民健康保険運営協議会を開催いたします。会議に入ります前に、鈴木達人委員から本会を欠席される旨の連絡がございましたことを御報告いたします。</p> <p>本日の出席委員数は14名でございます。本会規則第7条の規定による定足数、8名に達しておりますので、これより開会をいたします。</p> <p>なお、この会議は傍聴を認め、後日議事録を公表するといった会議の公開を行うものでございます。議事録作成のため、会議中の御発言はICレコーダーで録音させていただきますので、委員の皆様には御了承くださいますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、開会にあたり、健康福祉部長から御挨拶をお願いします。</p>
健康福祉部長	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>健康福祉部長の臼井でございます。</p> <p>まずもって皆さん、本日は、大変お忙しい中、本協議会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃から、本市行政、とりわけ国民健康保険事業に格別の御理解と御協力を賜っておりますことに対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、本日、お集まりいただきましたのは、次第にありますとおり、一つ目は、データヘルス計画の令和5年度実績評価、二つ目、令和5年度の国民健康保険事業の状況及び令和6年度以降の国民健康保険運営上の見通しと、以上大きく3点について、御説明をさせていただきますたいと考えたからであります。</p> <p>特に、2点目と3点目でございます。国民健康保険を取り巻く環境につきましては、加入者の減少や一人当たりの医療費の増大等によって、健全な財政運営が困難となっている旨、昨年来お伝えしてきたところでございますが、その厳しさは留まることを知らない状況です。</p> <p>県に納める事業費納付金も、引き続き増加が予想される中、もはや、一市町村の裁量で保険税負担の抑制を図っていくことは、現行制度では実質的に不可能と言わざるを得ないのではないかと考えているところです。</p>

健康福祉部長	<p>ただ、そう申しましても、そうした中、今できることとして私共最善の方策を講じてまいるわけですが、皆さんにはお気づきの点など、忌憚のない御意見をお聞かせくださるよう、切にお願いを申し上げて、私の冒頭の挨拶とさせていただきます。</p> <p>皆さん本日は、よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>では、議題に入ります前に、運営協議会規則第13条の規定により、2人の委員を議事録署名者として指名させていただきます。</p> <p>今回の議事録署名者は、花井 雅志委員、杉本 千登世委員のお二人をお願いしたいと存じます。</p> <p>なお、議事録については、後日事務局が作成し、署名をいただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議題(1)の「データヘルス計画令和5年度実績評価について」、事務局から説明をお願いします。</p>
保険医療課主事	<p>今年4月から保険医療課に配属となりました奈良と申します。</p> <p>私のほうから、議題(1)「データヘルス計画令和5年度実績評価について」御説明させていただきます。</p> <p>それでは、御説明させていただく前に、本日の資料の確認をさせていただきます。</p> <p>まず、事前にお送りしたものが、令和6年度第1回尾張旭市国民健康保険運営協議会資料一覧、次に、本日の会議の次第、A3横のホチキス止めの資料1、A4横のホチキス止めの資料2、A4横のホチキス止めの資料3、以上になります。不足するものがありましたら、お申し付けください。</p> <p>それでは、資料1を御覧ください。なお、正面のスクリーンでも映しますが、お手元の資料と同じものですので、見やすい方で御覧ください。</p> <p>表紙には記載しておりませんが、これは、平成30年から令和5年までを計画期間とする第2期データヘルス計画の期間最終年度の実績評価になります。</p> <p>まず、1ページ目の特定健康診査事業を御覧ください。特定健康診査は40歳から74歳までのかたを対象に実施する健診です。</p> <p>表の中ほどにあります、アウトプットの健診受診について御覧ください。右側にある各年度の実績を見ていただくと、令和2年度と3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、受診率が45%を下回っていましたが令和4年度は回復し、コロナ以前の数字に戻りつつあります。</p>

表には載っていませんが、尾張旭市は県内の平均 39.3%（令和 4 年度実績）よりも受診率は高く維持しているものの、目標値である 54%からは未だ遠い状況です。特に受診者の割合につきましては、40 代、50 代の若年層の受診が例年少なく、40 代、50 代は対象者の 3 割が受診し、60 代・70 代は半数を超えております。

次に、4 ページの生活習慣病予防健診をご覧ください。生活習慣病予防健診は国民健康保険に加入している 30 歳代のかたを対象に実施している健診です。アウトカムの上から 2 番目、「30 歳代の生活習慣病対象者の割合」についてご覧ください。実績を見ていただくと、平成 30 年度は 12.8%だったものが年々増加し、令和 5 年度には 17.3%と 4.5 ポイント増加しております。令和 5 年度の生活習慣病予防健診では、全受診者の約 2 割が BMI が 25 以上でした。BMI が 25 以上でも、年齢が若いために血圧や血液検査のデータはまだ異常のないかたが多く、生活習慣改善や健診受診への意識付けが難しい年代であると感じております。

次に 1 ページお戻りいただき、3 ページの特定保健指導事業を御覧ください。特定保健指導とは、40 歳～74 歳の方を対象とした特定健診受診者のうち、BMI や腹囲、血糖値やコレステロール値等が高く、生活習慣の改善が必要なかたに実施するものです。

表の 1 番上の枠アウトカムの上から 2 番目、「特定保健指導対象者率」について御覧ください。実績を見ていただくと、過去 5 年間は横ばいの状況ですが、先ほどの生活習慣病予防健診の対象の 30 歳代のかたが、このまま特定健診へ移行してしまうと保健指導の対象者率が上がることが見込まれます。そこでなるべく特定保健指導の対象とならないように、若い世代からの健診の受診習慣や生活習慣病への意識付けが大切だと考えております。まずは健診を受けてもらうところから始めるために、受診勧奨の方法を検討し、また、健診を受けた後の検査結果で、数値の高いかたに医療機関への相談・受診を促す通知を継続していきたいと思っております。

実績評価全体を通しますと、アウトカム、アウトプットについてなかなか目標値を達成できず、評価が○にならないところがございます。

目標値の設定につきましては、第 2 期データヘルス計画で課題となっておりましたため、今年 3 月に策定しました令和 6 年度から令和 11 年度までを計画期間とする第 3 期データヘルス計画では、目標内容や目標値の設定について、過去の推移と今後の状況を推測して現状に見合った数値に見直しており、現在は計画を進行中でございます。

	<p>以上、簡単ではありますが、私からの説明となります。記載内容について、このように表現した方が分かりやすい、など何か御意見等ございましたら、ぜひお伺いできればと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいまの事務局の説明につきまして、何か御質問御意見などはございませんでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。よろしければ、また最後にもう一度まとめて質問等お受けいたしますので、次の議題に移ります。</p> <p>それでは、次の議事に入ります。</p> <p>議題(2)「令和5年度国民健康保険事業状況報告について」、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>保険医療課長 補佐兼国保庶務係長</p>	<p>それでは、議題(2)令和5年度 国民健康保険事業状況報告について御説明いたします。申し遅れました、本年、4月より異動して参りました保険医療課課長補佐の小川真貴子と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、資料2をご覧ください。</p> <p>まず、1ページおめくりいただいて、2ページを御覧ください。2ページのページ番号が消えており、申し訳ございませんが、表紙を1ページおめくりいただいた裏面になります。まず国保の加入状況についてになりますが、上の表は国保の被保険者数や総人口に占める国保加入割合などの過去5年間の推移となっております。これをグラフ化したものが左下の図です。また、被保険者の年齢構成の推移が表の下半分と右下のグラフになります。</p> <p>被保険者数は、減少の一途をたどっており、特に令和4年度から令和5年度にかけては768人、率にして5%以上の減少となりました。また、令和5年度の加入割合は19.4%となっております。</p> <p>年齢構成においては、いわゆる団塊の世代が75歳に到達し、後期高齢者医療へと移行したため、令和4年度から令和5年度にかけて70～74歳の間のかたが減少しています。</p> <p>次の3ページを御覧ください。</p> <p>国民健康保険税のページです。</p> <p>令和5年度の一人あたりの調定額109,187円は、県内38市中上から16番目。県平均とほぼ同等となっております。</p> <p>その下、3の収納率は、令和5年度は95.49%で、前年度より0.83ポイント低下しましたが、県内では38市中上から17番目で、県平均の94.97%を上回っている状態です。</p>

次の4ページを御覧ください。保険給付のページになります。

1の被保険者一人当たりの費用額等は、高齢化の進行、医療の高度化により、費用額も高額療養費も大きく増加いたしました。

その下、3の出産育児一時金と葬祭費は、令和5年度は、葬祭費は増加したものの、出産育児一時金は令和5年度において、大きく減少しております。

次の5ページをご覧ください。保健事業のページになります。

1の特定健康診査・特定保健指導は、法定報告という全国統一基準の数字を用いていて、毎年11月の公表になるものですから、1年遅れとなっております。特定健診受診率は令和2、3年度は、コロナ禍による受診控えなどの影響がありましたが、令和4年度からは回復の兆しを見せております。特定保健指導受診率については、減少傾向にありますが県平均としては上回っております。

次の6ページを御覧ください。

最後に国民健康保険特別会計の令和5年度決算における財政状況です。

予算現額71億9855万4,000円に対し、歳入額は70億749万1,140円で、前年度に比べ0.4%の減少となっております。収入率は97.3%です。

次に、歳出額は70億4,821万8,471円で、前年度に比べ1.2%の増加となっております。執行率は97.9%です。

最後に、ページの中ほどに記載しておりますが、令和5年度決算において、歳出額に対しまして、歳入不足が生じたことから、単年度実質収支は赤字となり、令和5年度の歳入歳出差引額の4,072万7,331円を翌年度、これは令和6年度の歳入を繰り上げてこれに補填するという繰上充用を行っております。

次に、歳入歳出それぞれの内訳になります。

7ページ歳入を御覧下さい。

左の表の一番上、国民健康保険税は右側の円グラフで見ていただくと歳入全体の21.0%を占めています。収入済額は、14億7,488万1,169円で、前年度に比べ、約4,208万円、2.8%の減少となっております。主に、被保険者数の減少のほか、税算定の基となる被保険者の総所得額の減少、収納率の低下が影響したものと考えています。先ほどもご説明しましたが、収納率は、現年度分で、95.49%で、前年度(96.32%)を0.83ポイント下回っていたためです。

また、左の表の下のほうにあります基金繰入金は、令和4年度は取り崩しが不要だったものが、5年度では1億4,500万円を繰入れしております。

	<p>また、すぐ下の行にあります繰越金、これは前年度決算による繰越額となりますが、前年度から 83%ほど減少し、27,635,601 円となっております。</p> <p>次に一般会計繰入金です。職員給与費、出産育児一時金などの費用に関する法定繰入れ分と、福祉医療費の波及影響分や、条例による減免実施分に関する法定外繰入分とがあります。収入済額は、5億88万7,825円で、前年度に比べ、約890万円、5.0%の減少となっております。</p> <p>これは、主に、職員給与費、出産育児一時金の減少が大きかったことによるものです。</p> <p>歳入は以上でございます。</p> <p>それでは、次の8ページ歳出について御説明いたします。</p> <p>一番上の段、総務費について国民健康保険 特別会計における人件費や課税・資格管理などの事務的経費となっております。支出済額は、1億1,175万4,911円で、前年度に比べ、約773万円6.5%の減少となっております。これは、隔年で実施している保険証の更新の実施がなかったことによるものです。</p> <p>次に2行目の保険給付費で、歳出の67.1%を占めておりますが、国保加入者の、病気やけが、出産・死亡などに対する、給付費用となっております。支出済額は、47億2,688万6,969円で、前年度に比べ、約4,171万円、0.9%の増加となっております。</p> <p>次に3行目の国民健康保険事業費納付金です。これは県全体の医療給付費を県内の各市町村で分担して賄うための納付金で、市町村ごとの被保険者数や医療費水準、所得水準などにに基づき、算定されておりますが、保険給付費として新型コロナウイルスが感染症法上の第5類への移行や、インフルエンザの流行が早期から見られ、全体的な医療受診が増加したこと、一人当たり医療費が上昇したことなどにより、前年度より約1億1,500万円増加し、支出済額は、21億2,202万3,433円となっております。</p> <p>次にその下、保健事業費は、特定健診や特定保健指導、短期人間ドックなどに係る事業費となっております。令和4年度実績に比べ、約460万円減少となっておりますが、これは、被保険者数や特定健診等の受診者数が減少したことによるものです。</p> <p>説明は以上になります。</p>
会長	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>今の説明につきまして、御質問、御意見などはございませんでしょうか。</p>

三浦委員	4ページの上の四角の中の高齢化の進行とあるのですが、これは74歳までのことと言っているのでしょうか。高齢化って74歳までに70の方がそんなに多くいなくなっていたのかなって印象で。どういう風に受け取ったらよいのかお聞きしたいです。
保険医療課長	高齢化といいますと、国民健康保険ですと74歳までの方ということになりまして、75歳になりますと後期高齢に移られるわけですが、ここが団塊の世代のかたのピークは令和5年がピークで、国保から後期高齢者医療に移行する方が多かったということがあります。国保だけで捉えますと、やはり、少子化もあります。また、現役世代の方は社会保険に移行する方も多く、国保に残られる方としては年齢が高い方が残られるということで、74歳までの方ということで、その比重といいますか、割合が高くなってきているということで少子高齢化ということで申し上げている状況です。以上でございます。
三浦委員	ありがとうございます。医療の高度化はすごくよく感じているところなんですけれども、大きく増加というところに、高齢化となるんだ、と思ったので。ありがとうございます。
会長	ありがとうございました。他に御質問、御意見ございませんでしょうか。
石原委員	3ページの2番目あたりの調定額で県内38市の16番目ということですが、いつも目標値というか、何%満たしたというのがありましたよね、県の目標値があって、それに満たないと上げていくわけですよね、その表はどこかに出てきますか。で、どのぐらいに位置しているのか。
保険医療課長 補佐兼国保庶務係長	申し訳ございません、これまでのところがどういった表だったのかわからなくて申し訳ないのですが、次の資料3の3ページの今後の税率改定見込み、こちらに書いてあります令和9年度が、標準保険料率ということになっていまして、愛知県の標準保険料率としては令和9年度の、この料率が標準保険料率で示されているものになります。6年度の現行というところが現在の税率となっております。そこまではいっていないという状況となっております。

石原委員	これから読み取ると、今年は大体何%ぐらい上がりそうな、上げなきゃいけないというのが読み取れますか。
保険医療課長 補佐兼国保庶務係長	後ほどの資料3のほうでも御説明させていただくのですが、5年度決算でかなりの赤字が出たことにより、何%ということは申し上げられないのですけれども、今現行で考えている率としましては、この3ページの令和6年度現行の下にあります令和7年度、この率にまずは段階的にしていこうという予定で考えておりまして、まだ7年度の予定のこちらの率を使ったとしても、6年度に示されている標準保険料率の令和9年度のところにはまだ満たないという状況になっております。
石原委員	上がり続けるということですか。
保険医療課長	<p>失礼します、ちょっと補足なのですけれども、最初の資料2の今、石原委員がおっしゃった3ページのところの、一人当たり調定額というのが尾張旭市が令和5年度は10万9,187円でございます。この数字一人当たり、本市ですとこのような数字なのですが、ちなみに近隣で申し上げますと、瀬戸市ですと、10万5,488円。南隣の長久手市さんが、13万1,968円。この数字からいきますと、長久手市さんはかなり多くの税を課していることになります。</p> <p>何が申し上げたいかという、標準保険料率という県が示している数字があります。それに従ってきますと、本来でしたら、もう少し、今の10万9,187円よりかは上回らなければ、トントンにならないという言い方になってしまうのですけれども、どうしても赤字を迎えてしまう。隣の長久手市さんがこのような同じ数字が13万にもなっているということは、やはり相当な税率を上げているということ、こちらは長久手市さんのほうからもお伺いはしているのですけれども、そういった上げ方をしていかないと、なかなか、県が求める納付金を収めていくということが難しいということを表しているのかな、と。今年度、5年度について赤字を迎えたということは、そういった国保の財政状況なのかな、という感じで今考えております。以上です。</p>
会長	ありがとうございます。他にはどうでしょうか。また次の議題で今後の見込みということでお話があると思いますけれども。私から一つ。今回、令和5年度の決算の赤字であると。繰上充用しましたということですが、この赤字というのは、前もって想定す

	るとか予想するという事は難しかったということでしょうか。
保険医療課長	<p>今のご質問なのですけれども、令和5年度の年度途中において、国保税の収納率等の推移を見守ってございましたけれども、最終的に0.83ポイント下回ったということになったのですが、やはり途中から前年に比べて収納率が低下してきている状況は確認してございました。ただ、毎年国保の財政状況になりますと、途中はそういった傾向あるものの、年度末になりますとしっかり帳尻があってくるようなかたちもあったものですから、少し、そのあたりは静観してみていたという部分があります。ただ、5年度においては、そのあたりについて最終的に歳入不足にいたったということになりますので、予測ということは当初よりしておりませんでしたので、こういった状況になるということは初めてでしたので、こうせざるを得なかったというところがございます。他市なども聞きますと、早いところ補正など組んで対応するところもあるのですけれども、本市においては最後まで出納閉鎖をするまで見守った上でしっかり数字を見ていこうということで、このようになりました。以上です。</p>
会長	<p>ありがとうございました。他市ではあらかじめ予想されれば、補正などで対応するというような話がありましたが、実際には対応するといっても、財源がなければ赤字になってしまいますよね。</p>
保険医療課長	<p>そうですね、そのあたりについては一般会計からの繰入れを増額するなどして補填をしていくことになるかと思えます。</p>
会長	<p>わかりました、ありがとうございました。他に何か御質問よろしいでしょうか。それでは、関連するということですので、次の議題(3)「令和6年度以降の国民健康保険運営上の見通しについて」こちらを事務局から説明をお願いします。</p>
保険医療課長 補佐兼国保庶務係長	<p>それでは、続きまして、議題(3)、令和6年度以降の尾張旭市国民健康保険運営上の見通しについて、ご説明いたします。資料3を御覧ください</p> <p>まずはじめに、前の議題でも触れさせていただきましたとおり、令和5年度国民健康保険特別会計では、歳入不足などの要因から、令和6年度の歳入を令和5年度歳入に補填する繰上充用を行いました。</p> <p>このことにより、令和6年度以降も国保財政では厳しい状況が続</p>

くことが見込まれます。そのため、今後の財政健全化のための見通しを、まとめて御報告させていただくことにいたしました。

項番2になります。本市国民健康保険の背景からご説明いたします。傾向として県内全体として言えるのですが、下の表の①、②及び⑤、⑥のとおり、加入する被保険者数は減少し、それに伴い所得も減少している中、歳出である事業費納付金が増加しているという実態があります。

被保険者数減少の要因としては、令和5年度までは団塊世代が75歳を迎えたことが大きかったのですが、最近では、被用者保険の適用拡大が大きく、所得のある現役世代の方が減少し、現役を卒業された低所得層の方が残る状況に拍車をかけている状況です。

さらには、高齢化の進展により⑦一人当たりの医療費が増加し、事業費納付金の上昇に繋がっているものと考えています。

次に、2ページを御覧ください。

項番3、国民健康保険特別会計における現状となっております。

まず、(1)令和5年度の決算については、冒頭でも申し上げましたが、このたび歳入不足が生じたため、令和6年度予算からの繰上充用を行うことで決算いたしました。

歳入不足の主な要因としましては、年度当初予算編成時に予定していた国保税の歳入見込額が年度内で約3%減少したことや、収率が前年度から0.83ポイント低下したことがあげられます。

次に、(2)令和6年度予算については、事業費納付金の増加に伴い、国保税の急激な上昇が見込まれたことから、物価高騰対策の一環として国保税の負担緩和に係る繰入金を増額を当初より計上していましたが、このたびの令和5年度決算に伴う繰上充用の実施分、前年度からの繰越分が全てなくなったことによる繰入金について、この9月補正にて追加を行ったところです。

なお、繰上充用の実施により、現在の国保制度上では赤字団体とみなされ、県からは赤字削減・解消計画の策定が求められます。

次に、項番4、令和6年度以降の国保運営上の課題になります。

国保を取り巻く環境は、引き続き、被保険者数などが減少する一方で、事業費納付金の増加が見込まれます。

そうした中、赤字削減・解消計画に沿った財政運営に移行していかなくてはなりません。大幅な税率改定の実施は、中間所得層の負担を一層大きくし、さらには、低所得層の支払い困難を招くことも予想されます。

そこで、国保税に関しましては、被保険者に対して一定の配慮を行いながらも、赤字削減・解消に向け、大幅な引き上げの実施も必

	<p>要であるため、残る国保の基金を取り崩した上で、一般会計からの補助を受けつつ、段階的な税率改定を図っていきたくと考えています。</p> <p>最後に3ページを御覧ください。</p> <p>項番5、本件に要する費用となっております。</p> <p>今後、本市では、令和11年度の保険料の県内統一までに赤字補填目的の一般会計からの繰入額をゼロにする必要がありますが、概算では総額で7億5千万円を要する見通しです。</p> <p>これは下の表のとおり、令和11年度までの歳出見込額を算出し、必要調定額を段階的な税率引き上げを行いつつ試算した場合での、歳入不足額を一般会計からの繰入額見込みとしたものです。今後の被保険者数や医療費などの動向により、その都度見直しが必要になると考えております。</p> <p>令和5年度国民健康保険特別会計では、歳入不足が生じ、翌年度予算からの繰上充用を実施する状況となりました。そのため、令和7年度以降は税率の大きな引き上げが必要となるところですが、一般会計からの繰入れ増額の支援をいただきながら、財政の健全化を目指すというものです。</p> <p>大変長い説明となりましたが、今後の国保財政事情につきまして、御承知おきいただき、今後も委員の皆様におかれましては、引き続き御意見やお力添えを賜りますよう、よろしく願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ただいまの事務局の質問に対しまして、ご質問ご意見等がありましたらお伺いします。どなたか、よろしいですか。</p>
<p>岩橋委員</p>	<p>今の3ページの赤字補填目的の一般会計の繰入額の見込みなのですが、令和7年度から11年度にかけて7億5千万、ということは、各年度でこれだけ繰入すると捉えてよろしいのですか。というのは、単年度でこれだけずつ繰上げすると確定しているのですか。要は、5年間で捉えたときに7億5千万であるならば、各単年度平均化してもおかしくないんじゃないですか。アベレージ的に。ところが、各年度でこれだけ差が出てくるというのは、どうなのかな、と。</p>
<p>保険医療課長</p>	<p>こちらの段階的な税の引き上げということを考えております。やはり、なるべく均等な階段を上がっていくというイメージで税を上</p>

	<p>げていくということを考えますと、平準化もそうなのですが、いきなり上げるということもできませんので、今年度6年度から7年度という階段の高さは、ある程度あまり高くなりすぎず、低くもなくというようなことを考えていきますと、入れ方としては、順番に最初たくさんいただき、やはり、税は抑え気味に、抑え気味といっても、それなりの引き上げはするのですけれども、多くの一般会計をいただきながら、順番に上げていくということを考えれば、最初は繰入れは大きく、何回も小さくしていくということで引き上げに対して繰上げを小さくしていくというイメージで、この計画を、これはまだ試算ではあるのですが、ということでこういう数字の並び方になっています。階段を上がる、逆にあちらは下がるという、支援を小さくしていく、保険税とは反対の動きをしていく。そういうことでの数字としています。</p>
会長	<p>今のお話ですと、毎年少しずつですけども、まあ、少しずつかはどうかはわかりませんが、段階的に上がっていきます、と。それによって標準税率に近づいていく、近づけば近づくほど一般会計からの持ち出しは少なくて済みます、ということですね。</p>
岩橋委員	<p>しかし、一般財源のほうはどういう風に動くか、みえないじゃないですか。単年度、年度単位で。</p>
保険医療課長	<p>そうですね。実際にどれだけ繰入れが必要になるかというのは、これはあくまで試算ということで出した数字ですので、実際に7年度スタートいたしましてから、歳出の動きがどうなるかによってはこの数字はまた変わってくる可能性はございます。</p>
岩橋委員	<p>一応、基準として、こういう金額の基準で、みたいな。</p>
保険医療課長	<p>そうですね。あくまでもこちら財政部局との色々話し合いもあるものですから。一旦、こういった赤字が出たのですが、今後こういうかたちで解消していくのか、県のほうにも解消計画を出していないといけないんですけれども、そのための試算をあらかじめしなければなりません。で、今回この7億5千万というのはあくまでも現時点での試算ということになりまして、実際に委員が仰るとおりですね、どうなるかはわからないという話をしたところなんですが。</p>

岩橋委員	上がる可能性もあるし、下がる可能性もある。
保険医療課長	そうですね、その可能性もある。医療費の動向などいろんな要素がありまして、これがどちらに動くかわかりませんが、ただ、試算として出し、計画を提出していかなければいけませんものですから、こういったことでこういう試算をあくまでもさせていただきまして。ですから、実際に来年度になりますとこういった数字というはもう一回見直しが必要になるかもしれません、ということだけ御了承いただきたいと思います。
岩橋委員	単年度7年度の繰入額がみえた段階で、8年度以降は当然基準として変動させますよね。
保険医療課長	そうですね、その時点で、その時の税を引き上げた結果として、税収がしっかりとその歳出に見合ったものができているかにもよりますね、本当にその差が翌年度の繰越しがもしできればもちろん下がるわけですし、繰越しができないかもしれませんし、本当にそこらは読みづらい部分が正直言ってございます。
岩橋委員	経済関連の絡みが出てくるということで。これ7年度3億ですか、繰入れが。そうすると、仮に7年度が2億だとすると、8年度以降はどのように算定、基準として置かれますか。1億分を。
保険医療課長	そうですね、その1億が減るということは、
岩橋委員	3,000万円ずつ後ろに倒すとか。
保険医療課長	そうですね、少し改善がされてれば、当然もう少し階段が、低い階段が続くことになると思いますので、1億分というのは後ろにどれだけか影響というか減っていくことになるかと。
岩橋委員	11年度これでいくとゼロにするということであるならば実際に8年度、9年度、10年度で按分していくというかたちをとる。
保険医療課長	そういう階段式の按分になってくるんじゃないかなと思ってはおりますが、本当にこちらの内容については医療費の動向って結構大きいですよね、令和5年度においては、例えばコロナが5類に移行したりして医療費がちょっと上がったということがございます。

	<p>そういったことも年度途中にまたそういった事象が出てくるかもしれないので、それは動向ということでは蓋を開けてみませんとわかりませんが、今の時点では何もなかったらこういうかたちで、委員がおっしゃるように1年目の令和7年度がもう少し改善されておれば、こういった額はもう少し小さく改善になるという考えがございます。</p>
岩橋委員	<p>今の考えでいくと、5年間について7億5千万でとりあれず繰入額を限度打ちするんですか、青天（あおてん）ですか。</p>
保険医療課長	<p>これはあくまでも基準ですので、これが上回るか下回るかというのは現在のところではちょっと分かりかねる部分です。</p>
岩橋委員	<p>上回ったら、令和11年度で調整するしかなくなりますよね。5年間で。</p>
保険医療課長	<p>年度の途中でそうですね、見直しが必要かと思います。</p>
岩橋委員	<p>中期的な捉えをする。11年度が最終的に調整する繰入れという捉えでよろしいですか。</p>
保険医療課長	<p>11年度というのは、なぜ11年度かと申し上げますと、愛知県全体として県内の保険料の統一を考えております。統一をしていくのが、開始年度が令和11年度です。愛知県が県内で保険料統一を目指すのは11年度から開始していくということですので、県から言われているのが、ここまではゼロにしておかないといけないという県の指摘がございますので、我々にとってみたら、ここはゼロにしておかなければいけないという今の机上の計算になります。今控えているのが県内の保険料統一という、県での。</p>
岩橋委員	<p>あとは最終的に繰入れの調整額としては令和10年度で一応ゼロにすると。きれいなかたちで。</p>
保険医療課長	<p>はい。ここままで。ゼロにしていかなければということですので今動いております。</p>
岩橋委員	<p>わかりました、すみません。</p>

保険医療課長	よろしく申し上げます。
会長	ありがとうございました。他に御意見御質問ございませんでしょうか。
石原委員	すみません、今、県の目標値というか基準値みたいなものに達してないということでしたけれども、これってもう変わらないのですか。また、みんながそこまでいったらまたあげましようとか、先ほど言われた県全体で統一していくというと、また県が上げていくときになんら市町村は何も言えなくてそれに従っていくというだけでしょうか。
保険医療課長	<p>県では、石原委員がおっしゃるところの基準というか、標準保険料率、各市町村、あなたのところはいくら、あなたのところはいくらという、今、現状標準保険料率が各市町村に示されてきておりまして、それが例えば尾張旭市だったら、あなたは標準保険料率はこれをお願いします、と名指しでくる。各市町村それぞれで数字が異なるのですが、その違いというのが各市によって医療費の使い方とか加入されている方の数、加入されている方の所得の水準そういったものが全体で加味されてそれぞれが市町村の標準保険料率が決まってきたんですね。</p> <p>ですので、あまり所得の大きくない市町村、加入者の方が多いところが、それなりの係数がかけられ抑えられていたりしますし、尾張旭市ですと比較的中位から上のところに所得水準がありますので、そうすると尾張旭市というのは少し高めに出るといった、今県内では愛知県が市町村によって納付金、あなたが納めてくださいといってくる額というのは違いがありますので、そういったことからこれから引き上げていこうとしていく税については、どこまでそれに近づけるのかというのは、いきなり近づけることはかなり難航しそうなかたちなので、かなり大きな引き上げになってしまうので、段階的ということで今回お示ししている3ページのところでいう下の表の年度毎での引き上げを順番にしていくということを考えているということになっておりますので。</p> <p>先ほど、県内統一というのは、今あなたのところはこうだから、医療費水準がこうだからこうですよ、というのを取っ払われていくのが今後なんです、統一のために。どこの市町村でも同じ保険料というようなことがいずれそうされてくることになるんですけれども、現時点では今は各市の市町村による中身、加入者のかたの状</p>

	<p>況によって変わってくる、それに答えを按分しているというかたちになっています。</p>
<p>保険医療課長 補佐兼国保庶務係長</p>	<p>すみません、補足させていただきますと、市町村は何も言えないのかという先ほどの御質問に対してなんですけれども、今後も現在もなんですけれども、市町村でできる裁量というところがどうしても税率というところにしか出せないものですから、それに関しましては、現在もなんですけれども今年度においても、愛知県市長会議ですとか、そういった会議の場、市長さん達が集まって意見要望を国に出していく、そういった機会の中で尾張旭市が提案市となつてあげていっている状況ですとか、先日の9月議会におきましても、尾張旭市議団ということで、市議会のほうでも議員さんたちで意見をまとめていただいて、国の方へ要望書、意見書というかたちで市町村に対しての財政支援を行ってくださいという要望を出していただくという動きも行っております。</p>
<p>会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。なかなか難しい話ですけども、今まではこういう試算というか、これから11年に向けてこんな風にあげていっても、これぐらいの一般会計からの持ち出しが今の時点でこれぐらい見込まれますよ、また何か状況が変わればまた変わるかもしれないということですが、こういったものが具体的な数字として示されたのは初めてなのかなあ、という気がいたします。これが少しでも良い方向に向かうのかどうなのか、なんとも言えませんけども、この辺が来年度に向けては次の第2回の時にもう少し具体的なものが出てくる、ということですかね。</p> <p>ということで、現時点での見込みということだそうですね。他は何かよろしいでしょうか。</p>
<p>三浦委員</p>	<p>最初の資料1の感想ということで言わせていただきたいのですが、本当にこの額からすると少額なことなのですが、いろんな郵便料273万円とか、なんかこのスマホとかSNS使いの時代にまだ郵便料でこれからまた10月から上がっていきますから、こんなささいなことでも違ってくるのかなとか。あと、がん検診のほうですかね、1億8千万ですか、すごい金額だなと思って。費用対効果がどうなのかな、とか。あと一番後ろの医療適正化というところで、結構10人以下の人数の話が出てるのでそれぐらいのことでどう変わってくるのかな、と。今までの壮大な額からしてやっていることが焼け石に水みたいな。そんな印象を受けましたので、そんな感想です、すみません。</p>

会長	これ何かコメントを事務局からいただきますか。
三浦委員	いえ、いらないます。小市民の感想です。
会長	はい、ありがとうございました。事務局の方はよく聞いておいてください。
保険医療課長	はい、ありがとうございます。
会長	それでは、次の議題、最後の議題になります。議題(4)その他につきまして事務局から何かございますか。
保険医療課長	<p>では改めてなんですけれども、本日、財政状況など、国保事業を申し上げさせていただきました。</p> <p>今回、本市国民健康保険の見通しにつきましては、資料の中で、一般会計からの繰入額など具体的な数字を申し上げたわけなんです、この数字については、再三申し上げておりますけれども、今の時点での試算の数字となっておりますので、これが確定ではございませんので、今後の動向によりましてですね、この数字というのは増減することが十分に考えられます。あくまで現時点という見込みとして、ご理解くださいますようお願いいたします。</p> <p>それでは、変わらしまして、続いては、次回の会議につきまして、ご案内させていただきます。</p> <p>次回は、12月26日木曜日、午後1時30分から、ということです。本日は2時からなんですけれども、これまで2時という時間を多く設定しておりましたが、次回については午後1時30分からとなっておりますので、お間違いないようお願いいたします。場所は本日と同じこの会場にて開催を予定しております。議題といたしましては、11月下旬に愛知県からこれだけ納めてくださいといいますが事業費納付金の仮算定の結果が示されて参りますので、その内容に基づきまして国保税率の試算を行います。その行った結果を皆様に御説明させていただく予定でございます。</p> <p>年の瀬のお忙しい中ですが、誠に申し訳ありません、御予定くださいますようお願いいたします。</p> <p>また、その次なんです、第3回を予定しております。こちらは、年明け、令和7年1月23日木曜日です。この日も午後1時30分からということで、この会場での開催を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。そこでは、今年度の最終の開催となります</p>

	<p>ので、令和7年度の国保税率など、市長から諮問事項が出されて参りますので、皆様におかれては答申をいただくということとなりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>私からは、以上でございます。</p>
石原委員	<p>すいません、30分繰り上げの基準、根拠は何ですか。</p>
保険医療課長	<p>根拠は、医師の先生の方も途中でお帰りになるケースも多く、お時間を少し前倒ししたほうが適切ではないかということでも考えております。</p> <p>何か御都合があるでしょうか。</p>
石原委員	<p>あさぴ一号があるかな、と。バスで来ますので。</p>
保険医療課長	<p>そうですね、そこは調べておかないとですね。申し訳ございません。</p>
石原委員	<p>もっと早いので来ますからいいですけど。</p>
保険医療課長	<p>よろしく願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。事務局からは以上ですね。また全体を通してでも結構ですけれども、最後の時間になりましたので、何か言い忘れたとか聞き忘れたことなどありましたら、この場でお伺いしますけどよろしいですか。</p> <p>それでは、本日の日程は、全て終了しました。</p> <p>長時間にわたり御協議をいただき、ありがとうございました。</p> <p>これもちまして、令和6年度第1回尾張旭市国民健康保険運営協議会を終了します。ありがとうございました。</p>

午後3時00分閉会